

平成 24 年度国立吉備青少年自然の家教育事業

『中学生リーダーセミナー』

平成 25 年 2 月 23 日 (土) ~ 24 日 (日)

1. 事業の目的 (趣旨・ねらい)

中学校生徒会執行部役員など学校の中核を担って活動している中学生が集い、リーダーとして必要な資質を体験的に学び、また自らの学校の生徒会活動を活性化するための方策をグループワークを通して考えることによって、これからの生徒会活動を前向きな姿勢で取り組むことができるようにする。

2. 事業の概要

(1) 期日

平成 25 年 2 月 23 日 (土) ~ 2 月 24 日 (日)

(2) 募集人員, 対象

生徒会執行部役員など学校の中核を担って活動しようとする意欲のある中学生 (第 1 ~ 2 学年) 40 名。

(3) 参加者

6 人 (岡山市 3 名, 美作市 3 名)

(4) 企画・運営のポイント

- ・当施設利用団体の中に生徒会として利用されている中学校や高等学校がある。県内の中学校では 11 月頃から生徒会執行部の改選が行われ、新しいメンバーで活動を始めている。学校によっては新生徒会執行部の研修を行っているが、一方では多くの学校が研修を行っていないようである。そこで、生徒会執行部構成員がこの研修に参加し生徒会の意義を再確認することや学校間の交流・情報交換をすることによって、生徒会活動が活性化し、魅力ある学校作りにつながってくれればと思い企画した。また、開催日程については部活動や課題テスト等を考慮して当初は 1 月 8 日 (冬休みの最終) を設定したが、応募が 1 校 8 名に留まったことと個人や友達と参加したいという要望もあったため、1 月の開催を中止して 2 月に個人やグループ・学校からでも参加できるようにした。また、2 月は定期考査の時期でもあるため自学自習の時間も設けることで、中学生が安心して参加できるようにした。
- ・研修の形態は講師を招いて講義形式も考えられるが、当施設の冒険教育プログラムを活用して、体験活動からリーダーとしての資質やリーダーシップについて考えていく形にした。
- ・広報活動としてチラシや開催要項の配付は、従来の郵送ではなく E メールを活用して開催要項等のファイルを添付して行った。併せて後日、生徒会担当者に電話で参加の呼びかけと生徒会の情報を収集した。

3. 活動の内容等

(1) 日程表

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
一日目					受付	開講式	アイスブレイク 体験学習1	昼食			リーダーシップ 体験学習2		夕べのつどい 夕食		リーダーシップ 体験学習3	入浴準備 入浴	就寝準備	就寝
二日目		起床・洗面	清掃・片付け 朝のつどい	朝食	自学自習	体験学習4 チームビルディング	昼食		体験学習5 まとめ	閉講式								

(2) 活動の状況

○ 体験学習 1



アイスブレイク

まず、体験学習に入る前にどのような思いで参加しているか互いに知り合うために、学校の状況を交えて簡単な自己紹介から入り、今回のリーダーセミナーの効果の測定と参加者個人のリーダーシップを高めていく指標の一つとしてリーダーシップ測定尺度（国立妙高青少年自然の家）を活用し、事前アンケートをとった。また、3校の生徒が、初めての顔合わせや参加による緊張を解きほぐすためにアイスブレイクとして名前を呼び合うゲームを数種類行った。また、名前を覚え少し慣れた頃に個人の心のハードルを下げることをねらってエラーを起しやすいゲームを行った。

○ 体験学習 2

リーダーシップを発揮する上で必要な「困難に立ち向かおうとする力」や「役割を意識し、集団の規範を守る力」を高めていくために、課題解決ゲームを行った。導入部では、まだ手をつなぐことへの恥じらいや小グループになるときのこだわりが見られるため、手をたたき合うゲームや手をつないだまま行うゲームを取り入れ、少しずつ個々の心の枠を外していった。課題解決する過程で規範や役割を意識するように課題解決ゲームの後「ふりかえり」を行い、体験からの気づきを言葉にして「見える化」する活動「Being」を行った。単に体験のふりかえりだけでなく、「リーダーシップに必要なこと」と意識させてふりかえることで、活動の中でのリーダーシップの要素に



リーダーシップ



Being

気づいたことを互いに共有することができた。



課題解決！

課題をもつことの意味を体験から見つけ出すことができた。また、同じ目標をもち協力し合う中で仲間意識が芽生え、解決へと向けて動き出すグループが形成していくことにも気づくことができた。

○ 体験学習 4

前日までの学び「Being」に書かれてあることをこの体験学習4の中で生かされるかを確認して行った。内容は個々の情報を元に話し合っ



チームビルディング

○ 体験学習 5

これまでのセミナーをとおしての体験と学びをふりかえりながら学校に帰ってからすぐに行き行動目標を設定し、体験で得たことを実際の中学校生活で再シミュレーションすることで考え、インタビュー形式で紹介することで、目標をより具体的なものにすることができた。



1日目にとったリーダーシップ尺度測定の結果と合わせて個人とグループの結果を考察した。最初に立てた行動目標と合わせて長期的な目標を立ててまとめとした。

4. 成果・課題

(1) 成果

- ・参加者が3校6人と少数であったが、数多くの体験活動に楽しく取り組み、交流も自然に行えた。また、これまでしたことのない体験活動からの学びが新鮮に映ったようで多感な時期の中学生が素直に反応しグループワークもスムーズに行うことができた。
- ・この事業は当初は指導に当たれる者がいなかったことから企画してなかったが、事業の必要性に鑑み措置と指導体制が整ったことから、予算、広報活動や取組方を工夫することで年度途中から実施することができた。
- ・対象を生徒会と枠を作っていたが、リーダーシップをとる立場にある中学生に枠を広げて多くの考えを交流するとより充実した内容になると思われた。
- ・リーダーシップ尺度測定は小学生の高学年を対象に考えられたものだが、事前と事後の数値を比較してみると、全体では2 p t、個人では平均9 p t上がった。(内訳は課題達成機能は平均6.3 p t、集団維持機能は2.6 p tそれぞれ上がった。) 今回の研修会はリーダーシップの要素、特に課題達成機能に効果あるプログラムであったことがリーダーシップ測定尺度により分かった。

(2) 課題

- ・参加者が1校に留まったため日程と対象を変更して行ったが、参加者が集まりやすい日程にならず、多くの中学校が定期考査の期間に実施することになった。参加しやすい日程を設定することが一番の課題である。
- ・公表されている県内の中学校のアドレスに資料を送付した。簡単に経費もかからずできるが、実際に生徒会指導担当者をはじめ生徒の目にふれているかどうかは分からない。多くの担当者や生徒の目にふれるようにする工夫が今後の広報の課題である。

担当：企画指導専門職 宇江 賢